

# 職員の不祥事をどう考える？

小原議員

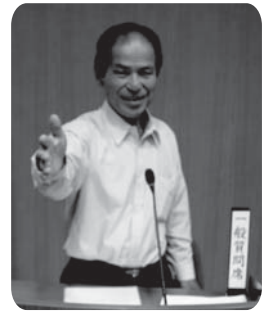
町長

## 研修を重ね 再発防止

【小原】 職員の不祥事が続いているが、どのような職員教育をしてきたか。また、今後どのように職員を教育していくのか。

【町長】 接遇などの研修をしてきた。今後も研修を重ねていく。

【小原】 職員の縦横のつながりが大切ではないか。あいさつ



【町長】 毎日朝礼をし、その日の予定を課の中で報告している。また、今回の不祥事に関するレポートを提出させている。それをもとにミーティングも必要だと考えている。

職員のとつながりは、課長同士だけではなく、課長補佐の連携も必要である。



毎日朝礼をする職員

【小原】 この度の不祥事に関して、責任者の懲罰は。

【町長】 懲罰委員会の決定は、当事者を懲戒免職処分、担当課長を減給（10分の1・1カ月間）、課長補佐を戒告処分、担当職員3名を嚴重注意処分。

法的な処分ではないが、事務的な管理が不十分であったため、副町長は給与10分の1を3カ月間自主返納する。

【小原】 職員の意識と態度と行動が、行政の質を左右する。職員を適材適所に配置することは、行政の質をよくするひとつの方策であると考えている。

また、幹部職員をどう育てていくかも大きな問題だが、どう考えるか。

【町長】 若手職員には多くの仕事を経験させ、適性や能力を見極める。中堅以降はできる

# 職員の配置は？

小原議員

町長

## 能力を見極めて

【小原】 自分の好きな分野の仕事をしてもらうのが、適材適所の職員配置だと思える。

【町長】 大きい組織だけ能力にあった仕事をさせる。幹部職員は、課長を補佐しながら管理職としての能力を高めるとともに、研修などで育成を進めていく。

のため、全員が好きな仕事につけるとは限らないが、モチベーションが上がるといような職員配置を考えたい。

【小原】 職員の管理として、公金を扱う部分をカメラで監視する話もあるが、反対である。

【町長】 反対の意見があると承知した。



適材適所の職員配置を